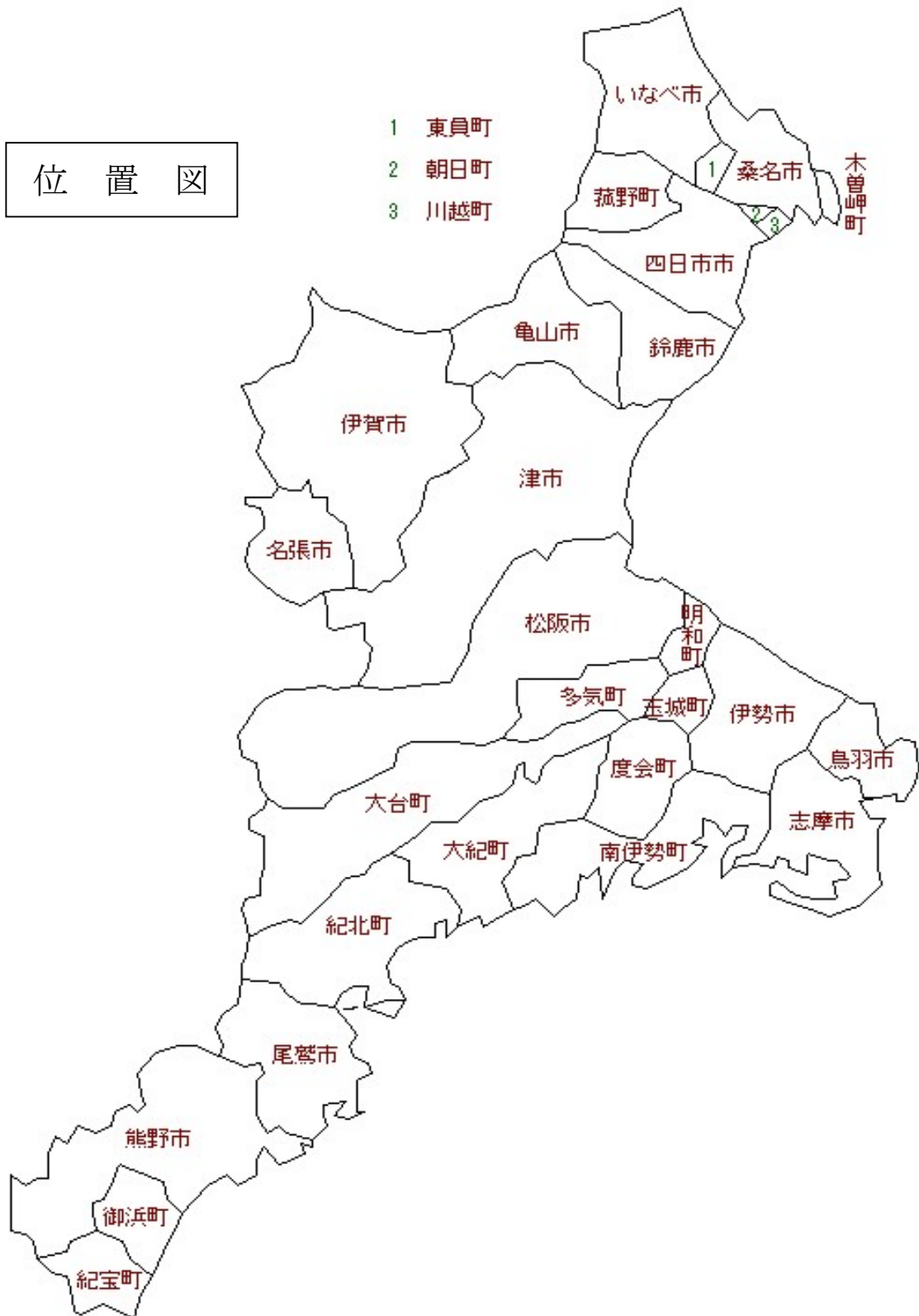


# 1. 四日市市の概況



## (1) 地域の概況

本市は三重県北部に位置し、面積 206.50 km<sup>2</sup>で、西は三重郡菰野町と接し、鈴鹿連峰につらなり、北は桑名市、三重郡朝日町、川越町、員弁郡東員町、いなべ市、南は鈴鹿市に、また東は伊勢湾に面し、三重県北勢地区の中心を占めている。

自然条件としては、鈴鹿山脈から発する朝明、海蔵、三滝、内部、鈴鹿の5河川が市内を貫流し、沿海平坦部は厚い沖積層、丘陵部は第3紀層及び洪積層からなり、沿海平坦地帯から中間地帯にかけては壤土、砂壤土、中間地帯から中山間地帯にかけて砂壤土、埴壤土、壤土の分布があり、水田は砂壤土が多く、畑地は埴壤土、壤土が多い。また、気温は平均15℃であり、降水量は年間1,800mm程度である。

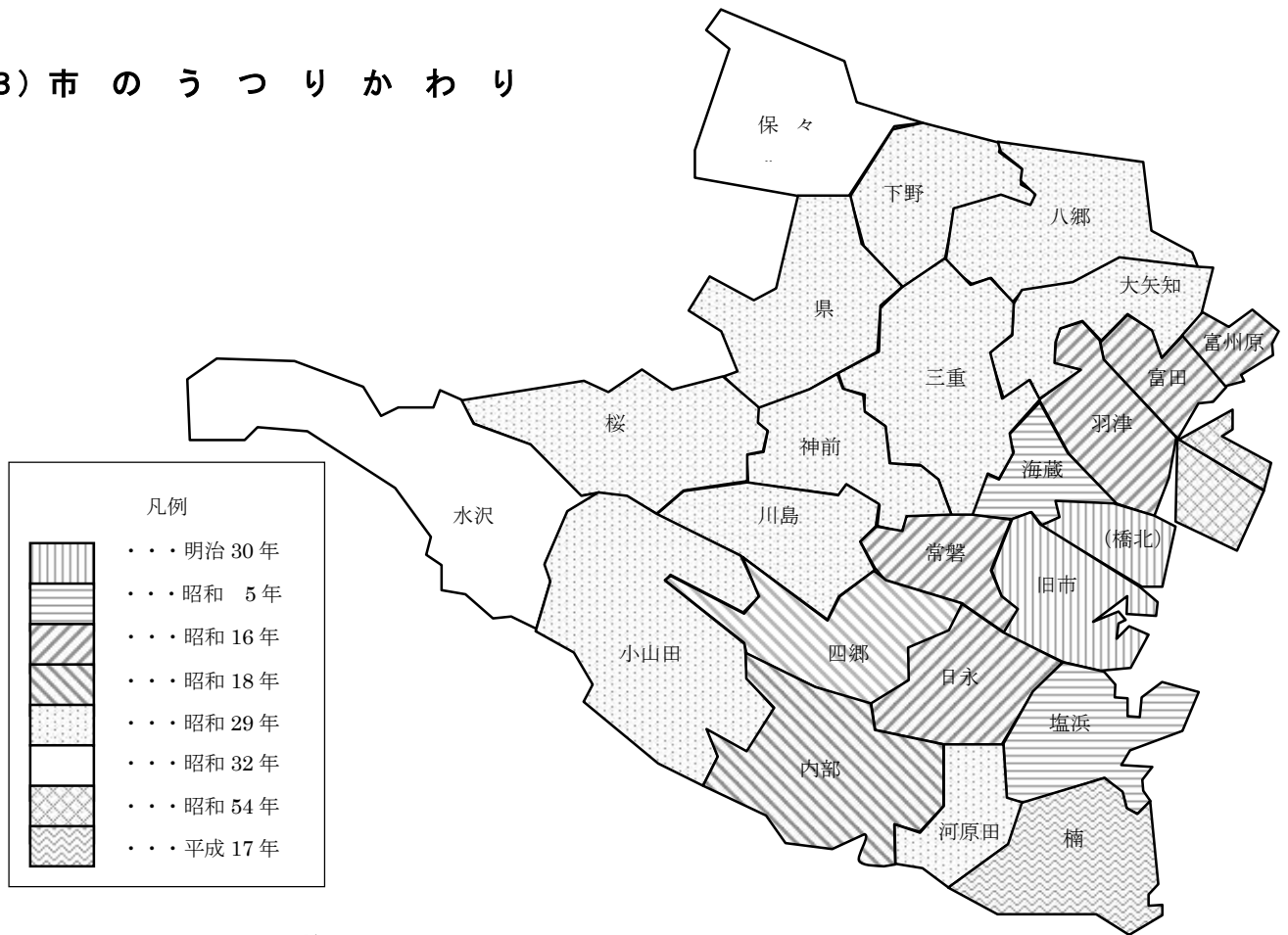
交通運輸については海陸とも恵まれた地域で、国際拠点港湾である四日市港が整備されている他、JR東海関西線、伊勢鉄道伊勢線、四日市あすなろう鉄道及び近鉄名古屋線が市域東部を市街地に沿って縦断しており、道路は東名阪自動車道、新名神高速道路、伊勢湾岸自動車道、国道1号、国道23号を中心に、これらの道路から地方道が各方面に伸び、農産物の出荷に有利な条件となっている。

## (2) 市の総括

(ICT戦略課調べ 令和5年10月1日現在)

位 置	東経 136° 38'	北緯 34° 57'
面 積	206.50km <sup>2</sup>	
人 口	308,248 人	
人 口 密 度	1,492.7 人 / km <sup>2</sup>	

### (3) 市のうつりかわり



### (4) 市の人口推移

(ICT 戦略課調べ 各年 10 月 1 日現在)

年次	西暦	面積	世帯数	人口 (人)			人口密度
		km <sup>2</sup>	戸	総数	男	女	人/km <sup>2</sup>
明治 33 年	1900	9.65	5,375	30,246	14,426	15,820	3,134
大正 9 年	1920	9.65	7,513	35,165	16,701	18,464	3,644
昭和 15 年	1940	17.26	13,224	63,732	31,732	32,000	3,692
25 年	1950	60.15	25,434	123,870	57,163	66,707	2,059
35 年	1960	191.31	43,171	195,974	94,160	101,814	1,024
45 年	1970	194.21	58,455	229,234	111,166	118,068	1,180
55 年	1980	196.29	73,981	255,442	124,319	131,123	1,301
平成 2 年	1990	197.33	89,664	276,788	135,981	140,807	1,402
12 年	2000	197.37	106,997	293,781	145,024	148,757	1,488
22 年	2010	205.58	127,820	314,393	156,351	158,042	1,529
25 年	2013	205.58	130,902	313,317	155,789	157,528	1,524
26 年	2014	206.44	131,987	312,734	155,429	157,305	1,514
27 年	2015	206.44	133,432	312,539	155,583	156,956	1,513
28 年	2016	206.44	134,541	312,182	155,570	156,612	1,512
29 年	2017	206.44	136,033	311,874	155,544	156,330	1,510
30 年	2018	206.44	138,279	312,258	156,252	156,006	1,512
令和 元年	2019	206.45	139,718	311,470	156,038	155,432	1,508
2 年	2020	206.48	141,768	311,716	156,413	155,303	1,509
3 年	2021	206.52	142,498	310,110	155,643	154,467	1,501
4 年	2022	206.50	144,556	310,113	156,002	154,111	1,501
5 年	2023	206.50	144,956	308,248	154,982	153,266	1,492

## (5) 年齢階層別人口の推移

(ICT 戦略課調べ 各年 10 月 1 日現在) 単位：人・%

年次	人口総数	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
※昭和 25 年	123,870	40,363	32.6	78,071	63.0	5,433	4.4
※ 35 年	195,974	52,525	26.8	132,723	67.7	10,726	5.5
※ 45 年	229,234	56,253	24.5	157,925	68.9	15,056	6.6
※ 55 年	255,402	63,503	24.9	169,675	66.4	22,263	8.7
平成 2 年	274,180	51,165	18.7	192,755	70.3	30,048	11.0
12 年	293,781	46,093	15.7	201,770	68.7	45,918	15.6
22 年	314,393	45,103	14.3	202,943	64.6	66,347	21.1
25 年	313,317	43,636	13.9	197,540	63.1	72,141	23.0
26 年	312,734	42,927	13.7	195,033	62.4	74,774	23.9
27 年	312,539	42,381	13.6	193,638	61.9	76,520	24.5
28 年	312,182	41,677	13.3	192,597	61.7	77,908	25.0
29 年	311,874	40,819	13.1	192,284	61.6	78,771	25.3
30 年	312,258	40,145	12.9	192,500	61.6	79,613	25.5
令和 元年	311,470	39,335	12.6	192,099	61.7	80,036	25.7
2 年	311,716	38,997	12.5	192,190	61.7	80,529	25.8
3 年	310,110	38,255	12.3	190,994	61.6	80,861	26.1
4 年	310,113	37,491	12.1	191,656	61.8	80,966	26.1
5 年	308,248	36,782	11.9	190,647	61.8	80,819	26.2

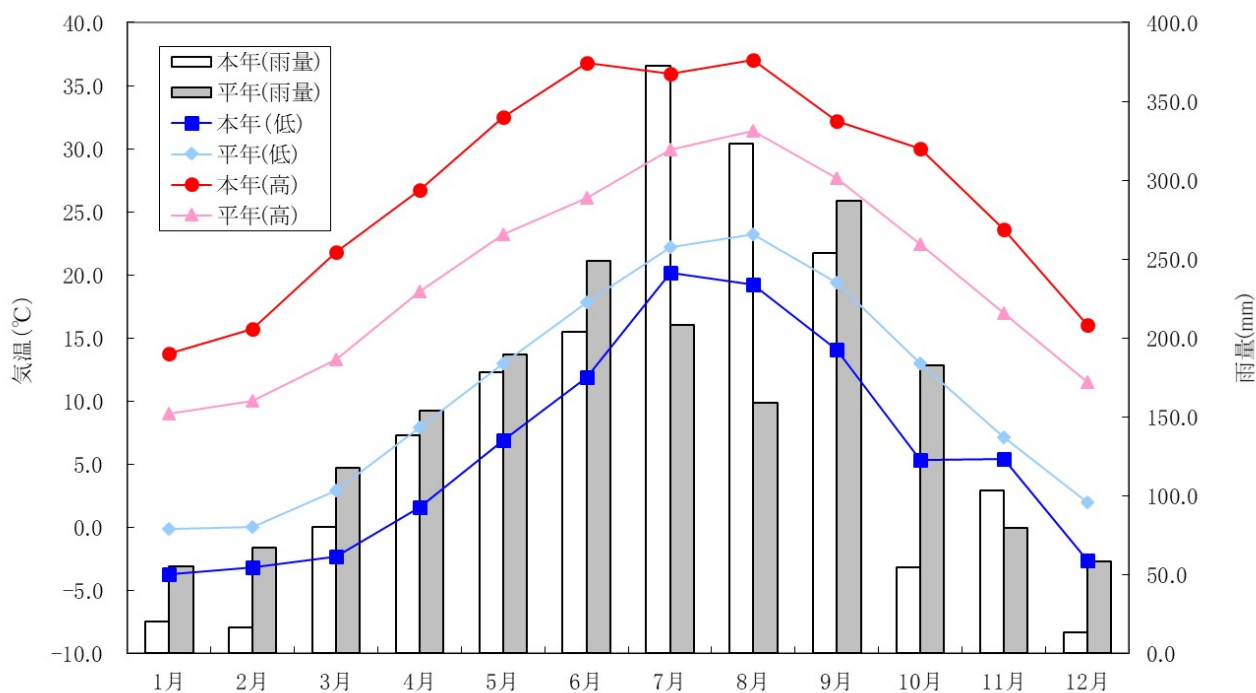
- (注) 1. ※印は国勢調査による。  
 2. 年少人口 …… 0～14 歳  
 生産年齢人口 …… 15～64 歳  
 老年人口 …… 65 歳以上  
 3. 年齢不詳は総数に含む。  
 4. 現在市域への組替えはしていない。

## (6) 気 象 「令和4年1月～令和4年12月」

(観測地：津地方気象台四日市特別地域気象観測所)

月	日最低気温(°C)		日最高気温(°C)		平均気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(h)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	-3.7	-0.1	13.8	9.0	3.8	4.3	20.0	55.5	157.0	152.2
2	-3.2	0.0	15.7	10.0	4.1	4.9	16.5	67.2	160.9	149.5
3	-2.3	2.9	21.8	13.3	9.9	8.1	80.5	117.8	169.4	181.7
4	1.6	7.9	26.7	18.7	15.3	13.3	138.5	153.7	184.1	189.8
5	6.9	13.0	32.5	23.2	18.1	18.0	178.5	189.3	185.8	194.2
6	11.9	17.8	36.8	26.1	22.6	21.7	204.0	249.0	187.8	147.9
7	20.2	22.2	35.9	29.9	26.3	25.6	372.5	208.0	173.4	162.4
8	19.2	23.2	37.0	31.4	27.2	26.8	323.0	158.8	157.4	196.2
9	14.1	19.4	32.2	27.7	24.7	23.2	254.0	286.9	144.0	151.8
10	5.3	13.0	30.0	22.4	17.2	17.5	54.5	182.9	169.9	153.9
11	5.4	7.1	23.6	17.0	13.7	11.8	103.0	79.7	165.2	156.8
12	-2.6	2.0	16.0	11.5	6.2	6.6	13.5	58.5	151.1	151.6
年間	6.1	10.7	26.8	20.0	15.8	15.2	1,758.5	1,807.3	2,006.0	1,988.0

(注) 平年値の統計期間：1991～2020年



### ●過去の最高・最低観測値

最低気温：-8.9℃ (2023.1.26)

最高気温：38.8℃ (1994.8.5)

最大日降水量：295.0mm (2000.9.11)

最大日積雪量：36cm (1995.12.25)

## (7) 市における農林水産業の地位

(国勢調査)

区 分	平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年		
	人 口(人)	構成比(%)	人 口(人)	構成比(%)	人 口(人)	構成比(%)	人 口(人)	構成比(%)	
総 数	303,845	—	307,766	—	311,031	—	305,424	—	
生 産 年 令 人 口	200,024	—	196,593	—	189,755	—	184,945	—	
老 年 人 口	56,609	—	65,609	—	75,660	—	78,647	—	
就 業 者 総 数	153,008	100.0	152,851	100.0	148,914	100.0	139,499	100.0	
第 一 次 産 業	農 業	2,950	1.9	2,110	1.4	1,967	1.3	1,697	1.1
	林業、狩猟業	7	0.0	15	0.0	12	0.0	18	0.0
	漁業、水産養殖業	152	0.1	85	0.1	59	0.0	33	0.0
	計	3,109	2.0	2,210	1.4	2,038	1.4	1,748	1.2
第 二 次 産 業	鉱 業	27	0.0	35	0.0	27	0.0	24	0.0
	建 設 業	14,858	9.7	12,652	8.3	12,082	8.1	10,868	7.3
	製 造 業	37,416	24.5	37,004	24.2	37,604	25.3	35,394	23.8
	計	52,301	34.2	49,691	32.5	49,713	33.4	46,286	31.1
第 三 次 産 業	卸 売 業、小 売 業	33,585	21.9	30,639	20.0	29,174	19.6	19,966	13.4
	金 融、保 険 業	3,703	2.4	3,774	2.5	3,601	2.4	3,103	2.1
	不 動 産 業	1,338	0.9	1,928	1.3	2,133	1.4	2,083	1.4
	運 輸、通 信 業	11,891	7.8	12,390	8.1	11,658	7.8	11,218	7.5
	電 気・ガ ス・水 道・熱 供 給 業	867	0.6	862	0.6	870	0.6	808	0.5
	サ ー ビ ス 業	38,898	25.4	36,616	24.0	39,214	26.3	46,178	31.0
	公 務	3,317	2.2	3,265	2.1	3,141	2.1	3,307	2.2
業 計	93,599	61.2	89,474	58.5	89,791	60.3	86,663	58.2	
分 類 不 能 の 産 業	3,999	2.6	11,476	7.5	7,372	5.0	4,802	3.2	

(8) 土地利用状況 (令和5年)

(資産税課調べ) 単位: m<sup>2</sup>

地目		区分	評価総地積	非課税地積	計
田	一 般 田		27,543,925	440,882	27,984,807
	宅地介在田 市街化区域田		919,809	109,965	1,029,774
畑	一 般 畑		15,733,058	322,206	16,055,264
	宅地介在畑 市街化区域畑		811,150	43,335	854,485
宅地	住 宅 用 地		30,652,939	—	—
	非 住 宅 用 地		24,561,675	—	—
	計		55,214,614	3,286,806	58,501,420
池	沼		168,165	253,738	421,903
山林	一 般 山 林		16,301,223	2,178,213	18,479,436
	介 在 山 林		94,824	53,295	148,119
原	野		1,048,518	518,617	1,567,135
雑	種 地		12,304,504	5,783,924	18,088,428
そ	の 他		—	27,002,229	27,002,229
合	計		130,139,790	39,993,210	170,133,000

## 2. 農業の概況

本市は、「四日市」という名が示すように、定期市の立つ市場町として栄え、さらに東海道五十三次の宿場町となり、四日市港による海上交通の発達とあわせて、この地方の行政・商業活動の中心地であった。戦後、周辺町村の併合により農村地域を多く含むようになり農業比率は大幅に増えたが、昭和 30 年代以降の工業の進出と急激な成長、それともなう都市化等により各種農業比率は徐々に減少している。

本市農業は都市近郊の特性を生かした農業が営まれており、市域の 6 割弱を占める農業振興地域において、米を主体に転作作物としての小麦・大豆、古い伝統と立地条件に恵まれた茶、指定産地のハクサイ、バレイショ、キャベツの他、ダイコン、カブを中心にした露地野菜、施設を利用した花き・メロン・トマト・イチゴや、ネギ等の軟弱野菜が生産されている。

1 経営体あたりの経営面積は 1.1 ヘクタールと小規模であり、典型的な都市部の経営様態となっている。

近年、頻発している自然災害や異常気象などの影響により、農産物の価格が不安定となっているが、生産者の顔の見える安全・安心な食材を求める市民ニーズは高く、産業としての農業が注目されている。

このような状況の下、平成 24 年度から国の事業として、農家の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などの「人と農地の問題」解決に向け、集落・地域の話し合いによる「人・農地プラン」の作成や、担い手農家・新規就農者への支援を実施している。現在、市では、16 の地区で「人・農地プラン」を策定しており、このプランを基に、「地域計画」の作成に取り組んでいるほか、市独自にも、重点事業として新規就農者等担い手農家の育成支援などを行なっている。また、遊休農地対策としては、農業委員会を中心に実施している荒廃農地全体調査により現状を把握しながら、優良農地への復元支援を行い、その解消に努めるとともに、「農地中間管理事業」等を活用して、担い手となる農業者への農地集積を図っている。さらに、農業経営の安定化に向け、生産だけでなく加工や販売なども含めた農業のビジネス化に重点的に取り組んでおり、6 次産業化や農商工連携の取り組みを支援している。

畜産については、経営の合理化や規模の拡大によりコストの低減を図るとともに、高品質な畜産物の生産拡大、畜産環境の保全、衛生防疫対策を重点的に進めている。また、食肉卸売市場における流通の活性化を図り、市場機能を一層強化するとともに消費流通ニーズに応えた施設整備を通じて食肉センター機能の維持向上に努めている。



## (1) 農家戸数

### (イ) 農家戸数

(2020年農林業センサス) 単位：戸

地区 \ 項目	総農家数	販売農家	自給的農家
合計	2,650	1,370	1,280
富田	64	38	26
富洲原	11	2	9
羽津	78	39	39
海蔵	35	21	14
橋北	10	0	10
本庁	11	5	6
常磐	46	17	29
日永	44	5	39
四郷	103	13	90
内部	180	78	102
塩浜	10	1	9
川島	113	64	49
神前	165	111	54
桜	136	75	61
三重	205	104	101
県	168	102	66
八郷	132	54	78
下野	116	49	67
大矢知	111	32	79
河原田	77	27	50
水沢	217	138	79
保々	218	149	69
小山田	287	179	108
楠	113	67	46

#### 農家

経営耕地面積が10アール以上の農業を行う世帯又は過去1年間における農産物販売金額が15万円以上の規模の農業を行う世帯をいう。

※専兼業別統計は2020農林業センサスにおいて廃止された。

(ロ) 農家戸数の推移

(2020年農林業センサス) 単位：戸

年次	農家戸数	専業	兼業			自給的農家
			計	第1種	第2種	
昭和45年	8,698	457	8,241	1,480	6,761	—
〃 50年	7,933	378	7,555	1,096	6,459	—
〃 55年	7,499	442	7,057	731	6,326	—
〃 60年	7,146	438	6,708	649	6,059	—
平成 2年	6,276	283	4,181	284	3,897	1,812
平成 7年	5,666	305	3,694	300	3,394	1,667
平成 12年	5,154	307	3,226	263	2,963	1,621
平成 17年	4,855	388	2,634	332	2,302	1,833
平成22年	4,329	502	2,084	198	1,886	1,743
平成27年	3,577	456	1,640	85	1,555	1,481
令和 2年	2,650		1,370			1,280

専業農家：世帯員の中に兼業従事者が1人もいない農家をいう。

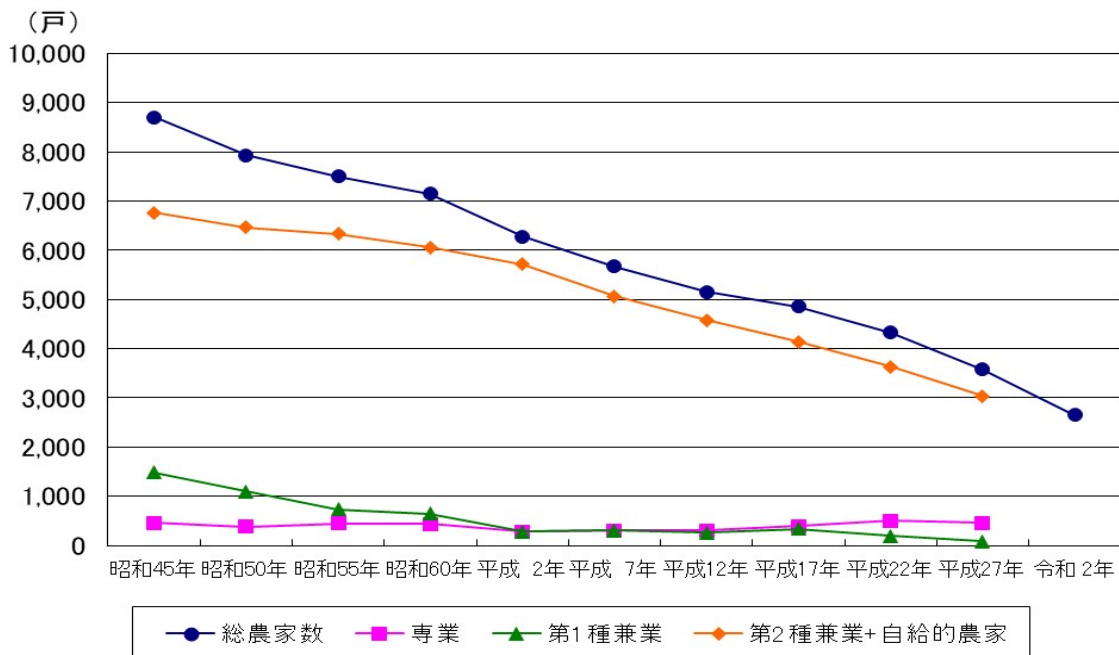
兼業農家：世帯員の中に兼業従事者が1人以上いる農家をいう。

第1種兼業農家：農業所得を主とする兼業農家をいう。

第2種兼業農家：農業所得を従とする兼業農家をいう。

※平成17年2月7日に四日市市は楠町と合併した。

※専兼業別統計は2020農林業センサスにおいて廃止された。



(ハ) 農家構成比の推移

(2020年農林業センサス) 単位：%

年次	総農家数	専業	兼業		自給的農家	
			第1種	第2種		
昭和45年	100	5	95	17	78	-
〃 50年	100	4	96	14	82	-
〃 55年	100	6	94	10	84	-
〃 60年	100	6	94	9	85	-
平成2年	100	4	67	5	62	29
〃 7年	100	5	65	5	60	30
〃 12年	100	6	63	5	58	31
〃 17年	100	8	54	7	47	38
〃 22年	100	12	48	5	43	40
〃 27年	100	13	46	2	44	41
令和2年	100	52				48

※平成17年2月7日に四日市市は楠町と合併した。

※専兼業別統計は2020農林業センサスにおいて廃止された。

(二) 経営規模別農家戸数

(2015年農林業センサス) 単位：戸

地区	項目	計	自給的農家	経営耕地なし	0.3ha未満	0.3～ 0.5ha未満	0.5～ 1.0ha未満	1.0～ 1.5ha未満	1.5～ 2.0ha未満	2.0～ 3.0ha未満	3.0～ 5.0ha未満	5.0ha以上
合	計	3,577	1,481	5	5	514	826	329	125	117	100	75
富	田	88	29	1	0	18	27	10	1	1	1	0
富	洲	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羽	津	128	47	1	0	35	31	9	3	2	0	0
海	蔵	46	17	0	0	9	13	4	1	2	0	0
橋	北	15	13	0	0	2	0	0	0	0	0	0
本	庁	16	9	0	0	1	5	0	1	0	0	0
常	磐	74	40	0	0	15	15	2	1	0	0	1
日	永	65	52	0	0	4	6	2	1	0	0	0
四	郷	144	116	0	0	9	12	5	1	1	0	0
内	部	251	108	0	0	38	52	34	11	2	5	1
塩	浜	14	9	0	0	1	3	1	0	0	0	0
川	島	160	49	0	1	26	40	16	8	9	7	4
神	前	212	63	0	0	32	67	29	7	6	3	5
	桜	190	82	0	0	31	41	16	6	6	3	5
三	重	270	115	0	0	40	66	29	9	7	2	2
	県	210	72	2	0	17	42	24	14	12	11	16
八	郷	178	89	0	1	30	42	6	5	1	1	3
下	野	184	89	0	0	33	45	9	2	2	2	2
大	矢	163	103	0	0	24	28	4	2	1	0	1
河	原	94	54	0	0	14	18	3	2	1	1	1
水	沢	255	77	1	0	18	35	27	20	36	25	16
保	々	283	74	0	3	31	95	45	13	9	10	3
小	山	375	111	0	0	63	104	33	13	16	24	11
	楠	152	53	0	0	23	39	21	4	3	5	4

※経営耕地面積規模別農家数の把握は2020年農林業センサスにおいて廃止された。

(ホ) 経営規模別農家戸数の推移

(2015年農林業センサス) 単位：戸

年次	経営耕地面積広狭別								
	農家戸数	例外規定農家数	30a未満	30～50a未満	50a～1ha未満	1～1.5ha未満	1.5～2ha未満	2ha以上	自給的家
昭和 45年	8,698	24	2,107	1,683	2,800	1,499	448	137	-
50年	7,933	17	2,159	1,593	2,598	1,062	360	144	-
55年	7,499	12	2,190	1,462	2,394	917	352	172	-
60年	7,146	4	2,268	1,406	2,212	755	311	190	-
平成 2年	6,276	17	-	1,247	1,954	704	287	255	1,812
7年	5,666	13	-	1,090	1,748	626	263	259	1,667
12年	5,154	14	-	951	1,526	538	218	286	1,621
17年	4,855	-	2	769	1,274	484	190	303	1,833
22年	4,329	3	3	621	1,076	415	160	308	1,743
27年	3,577	5	5	514	826	329	125	292	1,481

※平成 17、22、27 年は「農業経営体数」：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業にかかる面積・頭数が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者をいう。

- (1) 経営耕地面積が 30 a 以上の規模の農業
- (2) 農作物の作付面積又は栽培面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数その他の事業の規模が農業経営体の外形基準（①露地野菜作付面積 15 a、施設野菜栽培面積 350 m<sup>2</sup>等）以上の規模の農業
- (3) 農作業の受託の事業

※平成 17 年 2 月 7 日に四日市市は楠町と合併した。

※経営耕地面積規模別農家数の把握は 2020 年農林業センサスにおいて廃止された。

(ヘ) 経営規模別農家構成比の推移

(2015年農林業センサス) 単位：%

年次	総農家数	例外規定農家数	30a未満	30～50a未満	50a～1ha未満	1～1.5ha未満	1.5～2ha未満	2ha以上	自給的家
昭和 45年	100	0.3	24.2	19.3	32.2	17.2	5.2	1.6	-
50年	100	0.2	27.2	20.1	32.8	13.4	4.5	1.8	-
55年	100	0.2	29.2	19.5	31.9	12.2	4.7	2.3	-
60年	100	0.1	31.7	19.7	31.0	10.6	4.3	2.6	-
平成 2年	100	0.3	-	19.9	31.1	11.2	4.5	4.1	28.9
7年	100	0.2	-	19.2	30.9	11.1	4.6	4.6	29.4
12年	100	0.3	-	18.5	29.6	10.4	4.2	5.5	31.5
17年	100	-	0.1	15.8	26.2	10.0	3.9	6.2	37.8
22年	100	0.1	0.1	14.3	24.8	9.6	3.7	7.1	40.3
27年	100	0.1	0.1	14.4	23.1	9.2	3.5	8.2	41.4

※平成 17、22、27 年は農業経営体数

※平成 17 年 2 月 7 日に四日市市は楠町と合併した。

※経営耕地面積規模別農家数の把握は 2020 年農林業センサスにおいて廃止された。

(ト) 経営耕地面積規模別経営体数

(2020年農林業センサス) 単位：経営体

項目 地区	計	経営耕地なし	経営耕地あり								
			計	0.3ha未満	0.3～ 0.5ha未満	0.5～ 1.0ha未満	1.0～ 1.5ha未満	1.5～ 2.0ha未満	2.0～ 3.0ha未満	3.0～ 5.0ha未満	5.0ha以上
合計	1,404	11	1,393	7	269	510	228	105	88	85	101
富田	37	0	37	1	15	14	6	0	1	0	0
富洲原	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
羽津	38	0	38	0	15	13	5	2	2	0	1
海蔵	21	0	21	0	6	9	4	1	1	0	0
橋北	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
本庁	5	0	5	0	2	2	1	0	0	0	0
常磐	13	0	13	0	6	5	1	0	1	0	0
日永	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
四郷	9	0	9	0	1	4	2	1	1	0	0
内部	81	1	80	0	14	33	18	7	3	1	4
塩浜	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
川島	65	0	65	3	8	24	10	6	2	7	5
神前	114	0	114	0	21	45	23	7	8	3	7
桜	77	0	77	2	16	33	11	2	3	4	6
三重	106	0	106	0	27	43	19	5	3	6	3
県	108	3	105	0	7	30	15	15	9	11	18
八郷	54	0	54	1	18	22	5	3	2	2	1
下野	49	0	49	0	8	26	6	2	3	1	3
大矢知	33	0	33	0	12	12	5	1	2	0	1
河原田	27	0	27	0	11	11	1	2	1	0	1
水沢	144	4	140	0	10	28	18	15	23	27	19
保々	152	1	151	0	17	59	38	19	4	6	8
小山田	181	1	180	0	32	68	19	13	17	12	19
楠	67	0	67	0	14	21	18	4	1	5	4

※「×」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、国が統計数値を公表しないもの。

## (チ) 認定農業者数の推移

(農水振興課調べ 令和5年3月31日現在)

年度	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
認定農業者数	216	228	214	219	212	216	222	203	194	188
広域認定農業者数	—	—	—	—	—	—	—	23	40	50

## (リ) 営農類型別認定農業者数

(農水振興課調べ 令和5年3月31日現在)

地区名	主穀中心	茶	露地野菜	施設野菜	果樹類	花卉・花木	しいたけ	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他	計
羽津	1			1									2
海蔵						1							1
常磐									1				1
日永													0
四郷			1			1							2
内部	3		1	7									11
小山田	10	7	1	1					1				20
川島	4	3	2										9
神前	5			3		1			3				12
桜	6		2			1					1		10
三重	4												4
県	16		3	4	1	2			2	3			31
八郷	1												1
下野	4		1		4		1						10
大矢知													0
河原田				1									1
水沢	3	36	1	2		5							47
保々	12		2	3		1							18
塩浜													0
楠	2		2	2		1							7
久間田		1											1
計	71	47	16	24	5	13	1	0	7	3	1	0	188

## (2) 人口構成

### (イ) 地区別自家農業就業状態別農家戸数

(2015年農林業センサス) 単位：人

項目 地区	15才以上の 世帯員数	主 に 仕 事				主に家事 ・ 育 児	学 生	そ の 他
		小 計	自 営 農 業 が	勤 務 が 主	農 業 以 外 の 自 営 業 が 主			
合 計	7,576	5,401	2,267	2,795	339	969	553	653
富 田	222	155	55	94	6	40	16	11
富 洲 原	0	0	0	0	0	0	0	0
羽 津	309	205	70	129	6	57	20	27
海 蔵	115	80	19	54	7	14	13	8
橋 北	6	5	3	2	0	0	1	0
本 庁	26	16	4	10	2	7	0	3
常 磐	101	70	36	23	11	17	5	9
日 永	40	21	13	7	1	6	8	5
四 郷	92	67	31	34	2	12	5	8
内 部	481	368	178	162	28	40	32	41
塩 浜	18	11	4	6	1	3	1	3
川 島	377	276	122	136	18	35	26	40
神 前	526	375	164	188	23	68	41	42
桜	380	263	108	135	20	63	23	31
三 重	591	401	146	220	35	87	51	52
県	503	359	149	196	14	75	27	42
八 郷	331	238	96	124	18	43	28	22
下 野	335	242	92	132	18	49	21	23
大 矢 知	234	165	56	90	19	32	19	18
河 原 田	134	103	51	48	4	13	5	13
水 沢	656	506	296	181	29	56	46	48
保 々	787	536	177	334	25	112	67	72
小 山 田	934	669	283	357	29	97	63	105
楠	378	270	114	133	23	43	35	30

※農業就業人口の把握は2020年農林業センサスにおいて廃止された。



## (ロ) 年齢別農家人口

(2015年農林業センサス) 単位: 人

	男女別	計	0~14才 (注1)	15才以上(注2)			
				小計	15~29才	30~59才	60才以上
平成2年	男	14,217	2,634	11,583	2,676	5,724	3,183
	女	15,163	2,610	12,553	2,657	5,836	4,060
	計	29,380	5,244	24,136	5,333	11,560	7,243
平成7年	男	12,686	2,096	10,590	2,250	5,017	3,323
	女	13,486	1,973	11,513	2,293	5,153	4,067
	計	26,172	4,069	22,103	4,543	10,170	7,390
平成12年	男	11,543	1,664	9,879	2,147	4,353	3,379
	女	12,238	1,609	10,629	2,162	4,465	4,002
	計	23,781	3,273	20,508	4,309	8,818	7,381
平成17年	男	6,771	832	5,939	1,194	2,481	2,264
	女	7,070	791	6,279	1,151	2,544	2,584
	計	13,841	1,623	12,218	2,345	5,025	4,848
平成22年	男	5,502	618	4,884	862	1,900	2,122
	女	5,597	593	5,004	801	1,907	2,296
	計	11,099	1,211	9,888	1,663	3,807	4,418
平成27年	男	4,081	337	3,744	586	1,364	1,794
	女	4,171	339	3,832	547	1,377	1,908
	計	8,252	676	7,576	1,133	2,741	3,702

※平成17年2月7日に四日市市は楠町と合併した。(注1)平成2、7年は0~15才

(注2)平成2、7年は16才以上

※農業就業人口の把握は2020年農林業センサスにおいて廃止された。

## (ハ) 自家農業就業状態別農家人口

(2015年農林業センサス) 単位: 人

	男女別	15才以上 (A) (注)	自家農業 のみ	自家農業とその他			計(B)	(B)/(A) %
				自家農業が主	その他が主	小計		
平成2年	男	11,583	1,898	366	6,469	6,835	8,733	75
	女	12,553	4,335	228	2,751	2,979	7,314	58
	計	24,136	6,233	594	9,220	9,814	16,047	66
平成7年	男	10,590	2,044	302	5,724	6,026	8,070	76
	女	11,513	3,663	162	2,262	2,424	6,087	53
	計	22,103	5,707	464	7,986	8,450	14,157	63
平成12年	男	9,879	1,923	293	3,677	3,970	5,893	60
	女	10,629	2,947	161	1,977	2,138	5,085	48
	計	20,508	4,870	454	5,654	6,108	10,978	54
平成17年	男	5,939	1,647	436	2,802	3,238	4,885	82
	女	6,279	2,336	278	1,605	1,883	4,219	67
	計	12,218	3,983	714	4,407	5,121	9,104	75
平成22年	男	4,884	—	1,575	2,530	4,105	4,105	84
	女	5,004	—	1,127	1,628	2,755	2,755	55
	計	9,888	—	2,702	4,158	6,860	6,860	69
平成27年	男	3,744	—	1,371	1,905	3,276	3,276	88
	女	3,832	—	896	1,229	2,125	2,125	55
	計	7,576	—	2,267	3,134	5,401	5,401	71

※平成17年2月7日に四日市市は楠町と合併した。(注)平成2、7年は16才以上

※農業就業人口の把握は2020年農林業センサスにおいて廃止された。

(二) 地区別農業経営内部の労働力

(2020年農林業センサス)

項目 地区	農業に60日以上従事した世帯員、役員・構成員(経営主を含む)の状況								
	実経営体数	実人数							
		計	男			女			
			15～29歳	30～59歳	60歳以上	計	15～29歳	30～59歳	60歳以上
合計	991	1,104	17	280	807	565	3	129	433
富田	22	24	1	8	15	8	0	4	4
富洲原	×	×	×	×	×	×	×	×	×
羽津	21	23	1	9	13	7	0	0	7
海蔵	15	17	0	4	13	6	0	2	4
橋北	×	×	×	×	×	×	×	×	×
本庁	4	4	0	1	3	1	0	0	1
常磐	8	7	0	0	7	3	0	0	3
日永	×	×	×	×	×	×	×	×	×
四郷	7	9	0	4	5	4	0	1	3
内 部	61	63	0	10	53	40	0	6	34
塩 浜	×	×	×	×	×	×	×	×	×
川 島	48	50	0	16	34	31	0	7	24
神 前	73	81	3	18	60	34	0	5	29
桜	54	56	0	12	44	28	0	4	24
三 重	66	71	2	16	53	27	0	7	20
県	73	86	0	30	56	43	1	17	25
八 郷	36	39	0	7	32	23	0	2	21
下 野	31	32	0	9	23	19	0	4	15
大 矢 知	22	23	0	5	18	5	0	0	5
河 原 田	21	22	0	3	19	12	0	3	9
水 沢	123	159	6	52	101	109	2	36	71
保 々	105	111	2	26	83	42	0	6	36
小 山 田	138	153	2	31	120	87	0	15	72
楠	48	55	0	13	42	28	0	7	21

※「×」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

(3) 耕地面積

(イ) 地区別耕地面積 (30a以上の農家のみ)

(2015年農林業センサス) 単位: アール、戸

地区	項目 地区面積 (k㎡)	経営 耕地 総面積	田				園				畑					
			田 あ る 農 家 数	総面積	樹 園 あ る 農 家 数	総面積	果樹園		畑 あ る 農 家 数	総面積	普通作物を作った畑		飼料作物のみ作った		牧草専用地	
							農家数	面積			農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
合計	206.44	289,240	1,944	209,773	354	54,248	90	3,266	1,035	25,219	921	18,234	5	74	1	900
富田	4.88	4,401	58	4,195	1	2	0	0	21	204	19	117	1	19	0	0
富洲原	2.04	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羽津	8.80	5,438	80	5,083	3	14	1	10	39	341	34	289	0	0	0	0
海蔵	3.65	2,298	29	2,172	0	0	0	0	19	126	12	64	0	0	0	0
橋北	2.62	70	2	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本庁	6.54	504	7	472	0	0	0	0	4	32	4	32	0	0	0	0
常磐	4.89	3,229	32	3,087	1	50	0	0	11	92	10	80	0	0	0	0
日永	7.23	905	13	819	0	0	0	0	6	86	6	76	0	0	0	0
四郷	8.40	2,262	23	1,487	6	222	4	80	14	553	14	501	0	0	0	0
内部	12.31	14,168	137	10,427	6	51	3	27	92	3,690	77	2,690	0	0	0	0
塩浜	8.30	356	4	293	1	15	1	15	2	48	2	48	0	0	0	0
川島	7.89	15,532	103	7,862	33	4,973	10	447	68	2,697	58	1,648	0	0	0	0
神前	7.40	18,765	148	17,363	9	115	7	63	88	1,287	80	945	0	0	0	0
桜	12.02	15,625	106	13,104	12	751	6	473	68	1,770	57	1,196	0	0	0	0
三重	11.83	16,784	155	15,562	7	87	2	28	89	1,135	85	831	0	0	0	0
県	11.25	43,138	128	39,252	8	628	7	623	63	3,258	57	2,103	1	11	1	900
八郷	10.21	9,637	88	9,088	4	16	2	6	49	533	43	366	0	0	0	0
下野	7.57	8,090	91	6,850	12	759	10	716	40	481	37	358	0	0	0	0
大矢知	6.89	5,778	60	5,381	5	21	3	15	33	376	31	356	0	0	0	0
河原田	5.12	3,807	36	3,115	23	545	22	524	14	147	12	119	0	0	0	0
水沢	19.63	40,321	97	6,780	147	30,970	2	61	26	2,571	24	2,174	0	0	0	0
保々	10.86	25,781	208	24,740	3	24	2	12	101	1,017	86	663	3	44	0	0
小山田	18.35	39,366	240	20,331	67	14,976	6	160	118	4,059	107	3,029	0	0	0	0
楠	7.76	12,985	99	12,240	6	29	2	6	70	716	66	549	0	0	0	0

※地区別耕地面積(農家数)の把握は2020年農林業センサスにおいて廃止された。

## (ロ) 地区別耕地面積 (経営体数)

(2020年農林業センサス)

地区	項目	地面積 (k㎡)	区積 面積(a)	田		畑		樹園地	
				田のある 経営体数	面積(a)	畑のある 経営体数	面積(a)	樹園地 のある 経営体数	面積(a)
合	計	206.48	281,981	1,230	204,091	536	28,986	257	48,904
富	田	4.88	2,356	36	2,250	10	104	1	2
富	洲原	2.04	×	×	×	×	×	×	×
羽	津	8.80	10,012	36	9,629	16	337	4	46
海	蔵	3.65	1,718	21	1,654	7	62	1	2
橋	北	2.62	×	×	×	×	×	×	×
本	庁	6.54	326	5	322	1	4	0	0
常	磐	4.89	913	12	775	3	68	1	70
日	永	7.23	×	×	×	×	×	×	×
四	郷	8.40	933	7	511	5	382	3	40
内	部	12.31	14,804	73	11,826	46	2,917	3	61
塩	浜	8.30	×	×	×	×	×	×	×
川	島	7.89	12,065	56	6,214	36	1,882	21	3,969
神	前	7.40	20,479	113	16,162	42	4,167	7	150
	桜	12.02	11,954	73	9,004	39	2,755	4	195
三	重	11.83	23,757	104	22,760	49	890	2	107
	県	11.25	47,648	95	44,303	40	2,591	8	754
八	郷	10.21	5,133	53	4,820	17	285	4	28
下	野	7.57	9,177	45	7,770	17	605	13	802
大	矢知	6.89	2,982	33	2,817	11	157	1	8
河	原田	5.12	2,550	23	2,012	8	62	15	476
水	沢	19.63	38,895	56	5,286	22	3,145	113	30,464
保	々	10.86	28,095	148	26,648	61	1,079	4	368
小	山田	18.35	33,024	155	16,110	70	5,581	49	11,333
	楠	7.80	12,325	67	11,914	27	400	1	11

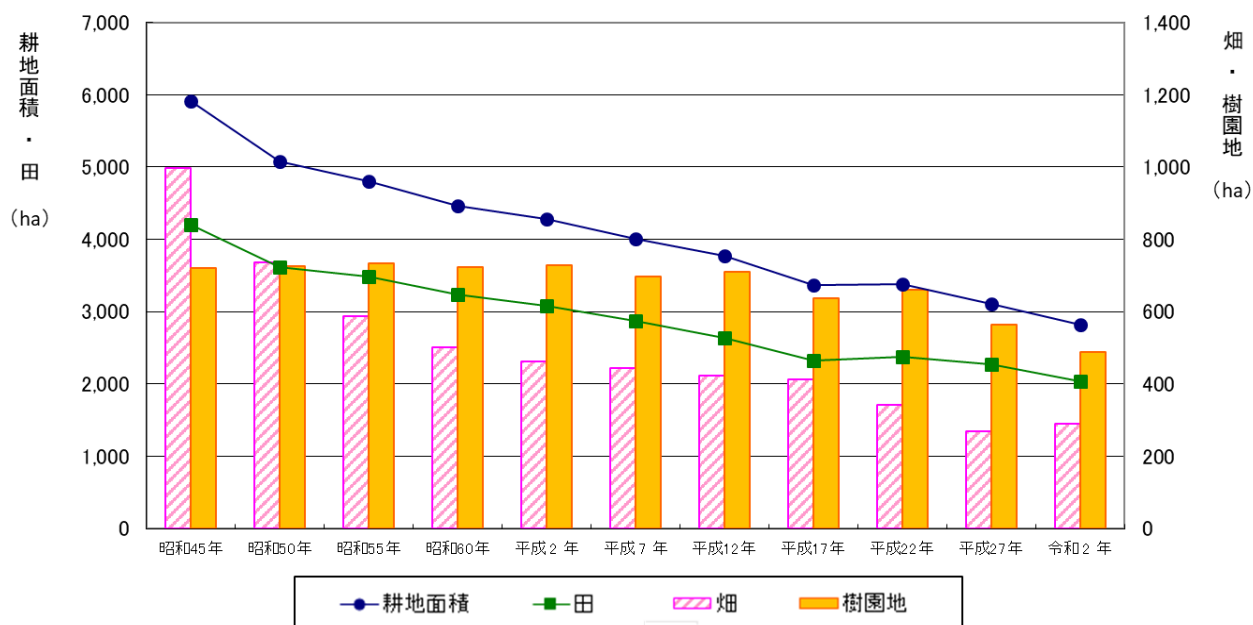
※「×」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

## (ハ) 耕地面積の推移

(2020年農林業センサス) 単位：ha、%

年次	耕地面積	田	畑	樹園地	一経営体 当り経営 面積	総面積	耕地面積 率
昭和45年	5,916	4,199	997	720	0.68	19,371	31
〃 50年	5,081	3,621	735	725	0.64	19,448	26
〃 55年	4,804	3,482	587	734	0.64	19,677	24
〃 60年	4,464	3,240	502	722	0.62	19,713	23
平成 2年	4,276	3,087	461	728	0.68	19,733	22
〃 7年	4,007	2,866	443	698	0.71	19,736	20
〃 12年	3,772	2,638	423	711	0.73	19,737	19
〃 17年	3,372	2,323	412	638	0.69	20,516	16
〃 22年	3,375	2,373	342	661	0.78	20,533	16
〃 27年	3,103	2,270	270	563	0.87	20,644	15
令和 2年	2,820	2,041	290	489	1.06	20,645	14

※平成 17年 2月 7日に四日市市は楠町と合併した。



## (4) 農産物の生産

### 主要農産物の生産

本市の農業生産は米を中心として、特産品である茶をはじめ野菜、花き、果樹、施設園芸等と多種に及んでおり、特に施設園芸、花きは都市近郊という有利な立地を活かして生産が行われている。

#### ○稲

(農林水産省統計)

種 類	作 付 面 積	10a当り収量	収 穫 量
水 稻 (令和4年度産)	1,490ha	504kg	7,520t

#### ○麦類

(農林水産省統計)

種 類	作 付 面 積	10a当り収量	収 穫 量
小 麦 (令和4年度産)	464ha	312kg	1,450t

#### ○豆類

(農林水産省統計)

種 類	作 付 面 積	10a当り収量	収 穫 量
大 豆 (令和4年度産)	248ha	84kg	208t

米の消費量が年々減少し、今後も減少傾向が予想される状況のもと、米価の大幅な下落防止のため生産調整を実施して、需要に応じた米づくりに取り組んでいる一方で、農地の宅地開発等に伴って水田面積は減少している。

本市の稲作は小規模経営の兼業農家による生産が大部分を占めており、高齢化等により生産農家は減少しているが、担い手農家への経営委託、農作業委託も行われ、経営規模の拡大が進みつつあり、比較的規模の大きい生産農家の占める割合も増加してきている。また、担い手のいない小規模農家からなる地域では、集落営農組織による生産活動が行われている。

一方、消費者の志向が多様化する中、農産物の安全・安心への関心の高まりから特別栽培米等といった付加価値米の需要も高まっていることから、より一層の良質米の生産が重要となっている。

国による生産調整対策については、平成 25 年度から「経営所得安定対策」として、農業経営の安定と国内生産力の確保を図るため、小麦・大豆の作付や米粉用米・飼料用米などの作付転換が進められている。今後は作業の集約化による生産の効率化や品質の向上が望まれるところであり、併せて地域計画に基づき、認定農業者や集落営農組織等の担い手農家への農地の集積・集約を早急に進める必要がある。

## ○いも類

(2020年農林業センサス)

品 目	作付農家戸数	作付面積(a)
かんしょ	19	149
ばれいしょ	28	×

※「×」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

## ○野菜類

本市の野菜生産は、都市近郊の立地の利を活かして、露地野菜、施設野菜が広く栽培されており、秋冬はくさい（昭和43年指定）、ばれいしょ（平成14年指定）、冬キャベツ（平成30年指定）、春キャベツ（平成31年指定）は指定産地となっている。

施設野菜としてはハウストマトや温室メロンが栽培されており、市場でも産地としての評価を得ている。最近では新規就農による施設栽培が増えている。

(2020年農林業センサス)

品 目	作付農家戸数
トマト	37
なす	38
ピーマン	19
きゅうり	38
キャベツ	46
はくさい	55
ほうれんそう	35
ねぎ	43
たまねぎ	40
ブロッコリー	35
だいこん	47
にんじん	22
さといも	39
いちご	12
すいか	9
メロン	5

## ○果樹

本市の下野・県地区では、日本なしの生産が行なわれている。また、河原田地区で温州みかんが栽培されている。いずれも農家やJAの直販所での販売が中心である。

(2020年農林業センサス)

品 目	作付農家戸数
日本なし	14
温州みかん	17
かき	×
くり	5
うめ	×

※「×」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

## ○花・苗

本市は都市近郊の有利性を活かし、鉢花、観葉植物、花壇苗等の栽培が盛んである。鉢花はシクラメン栽培が主力であるが、ハイドラングアやポインセチアなども栽培されている。花壇苗栽培は茶農家が裏作に栽培することが多い。

(2020年農林業センサス)

品目	作付農家戸数	作付面積(a)
花き類	22	710
花木類	18	984

## ○茶

三重県は、茶の栽培面積・生産量が全国第3位であり、中でも本市は明治以前からの古い伝統があり、立地的、気象的にも好条件に恵まれた水沢・小山田・川島地区を中心に約440haの茶を栽培する県下有数の産地となっている。特にこの地域は「かぶせ茶」の生産が盛んで、特産品となっている。一部では、減化学肥料・化学農薬といった環境にやさしい茶の生産に対する取り組みも行われている。一方、茶価の低迷とコスト増により経営が厳しくなっており、担い手農家の高齢化もあり、作業の合理化等や販路拡大、消費振興などが今後の課題となっている。

(2020年農林業センサス)

品目	作付農家戸数
茶	164

### 地区別栽培農家数

(2020年農林業センサス)

地区名	水 沢	小 山 田	川 島	そ の 他	計
戸 数	108	45	10	1	164
比 率 (%)	65.9	27.4	6.1	0.6	100





## (5) 農業生産所得

### 部門別農業産出額の推移

(農林水産省 市町村別農業産出額 (推計))

		令和元年	令和2年	令和3年	
農業産出額	耕種	米	161	155	134
		麦類	3	4	4
		雑穀	0	0	0
		豆類	5	5	5
		いも類	4	6	5
		野菜	83	86	90
		果実	20	24	25
		花き	24	23	20
		工芸農作物	127	92	129
		その他作物	33	31	33
		小計①	458	426	444
	畜産	肉用牛	96	82	93
		乳用牛	11	9	8
		豚	×	×	×
		鶏	7	7	8
		その他畜産物	×	×	×
小計②		227	112	123	
加工農産物③		72	10	14	
合計①+②+③		658	548	581	

※生産農業所得統計における都道府県別農業産出額を農林業センサス及び作物統計を用いて按分し、市町村別の農業産出額を推計したもの。

※計と内訳の合計が一致しないのは、表示単位未満を四捨五入しているためである。

※「×」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

## (6) 農機具普及台数

(2015年農林業センサス) 単位：台

年次	トラクター	動力防除機 乗用型スピードスプレイヤー	田植機	バインダー	コンバイン	米麦用 乾燥機
昭和45年	4,424	1,216	15	280	238	3,434
50年	5,385	1,369	733	1,331	1,198	4,294
55年	5,875	2,125	3,147	968	2,925	4,489
60年	6,057	(動力防除機)2,248	3,527	745	3,202	3,938
平成 2年	5,951	1,340	3,478	447	3,207	2,128
7年	5,461	1,453	3,263	268	3,017	1,624
12年	4,449	1,203	2,599	131	2,548	1,208
17年	(乗用型)2,795	1,131	2,196	—	2,137	—
22年	(乗用型)2,456	—	1,894	—	1,793	—
27年	(乗用型)1,772	—	1,314	—	1,277	—

※農業用機械の保有台数は、2020年農林業センサスにおいて把握が廃止された。

